

新あま市民病院基本構想

市民病院建設調査特別委員会にて

平成 22 年 6 月 8 日にあま市民病院の建替えに関して
市民病院建設調査特別委員会が設置されました。全議員40人で構成され
正副議長が、正副委員長を兼ねています。
12月定例会の本会議最終日終了後に、第1回の特別委員会が開催され
執行部より基本構想(案)の報告がありました。
ここでは、新市民病院の概要について報告します。

市民病院建設調査特別委員会の模様



建

設場所は、現在のところ現在
地で敷地面積

約9910㎡。延べ建築面積は約14400㎡で、総事業費は約60億円(用地購入費は除く)です。建物構造は、将来発生が予想される東海、東南海地震などの大規模災害時に診療機能が維持できる計画とします。

財源は、国の地域医療再生基金交付金3億6300万円をはじめ、企業債および病院の一般財源などを予定しています。

回復期リハビリテーション充実

病床規模は180床を予定しており、内訳は一般(急性期)病床112床、亜急性期病床18床、回復期リハビリテーション病棟50床です。回復期リハビリテーションとは、術後や入院治療における早期リハビリだけでなく、回復期における患者さんのQOL(生活の質)の向上を目指す医療です。

ほかに人間ドックなどの健診センターや、緩和ケア病床の整備も検討します。

診

療科目は内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科の9科からなり、診

療ユニット制を導入し、患者の個々の状況に応じた最適な医療サービスを提供します。

診療ユニットとは、それぞれの専門領域を持つ複数の医師がチームを組むことで、これまで以上に多角的な観点から検討を加えた上で、治療方針などが決定、実践されるものです。

1日、500人の外来患者に対応

外来患者数は、350人から450人/日(ピーク時：500人/日)を予定し、1日、500人の外来患者に対応できる規模とします。そのため駐車場の整備はもちろん、喫茶コーナー、売店(コンビニ)、レストランも職員食堂併設型で検討します。また、職員が働きやすい環境を整えるため、院内保育所の設置も検討します。

運

①患者の立場となり、迅速な検査と診療に努めます。
②外来診療は、紹介および予約患者を積極的に受け入れ、円滑な患者受入体制と待ち時間の短縮を図ります。
③地域の開業医や高次医療機関などの連携を強化し、患者の段階に応じた医療を提供します、などです。

